夢童

菅波　茂

東北―岡山中学生「絆」形成3ヶ年プログラム

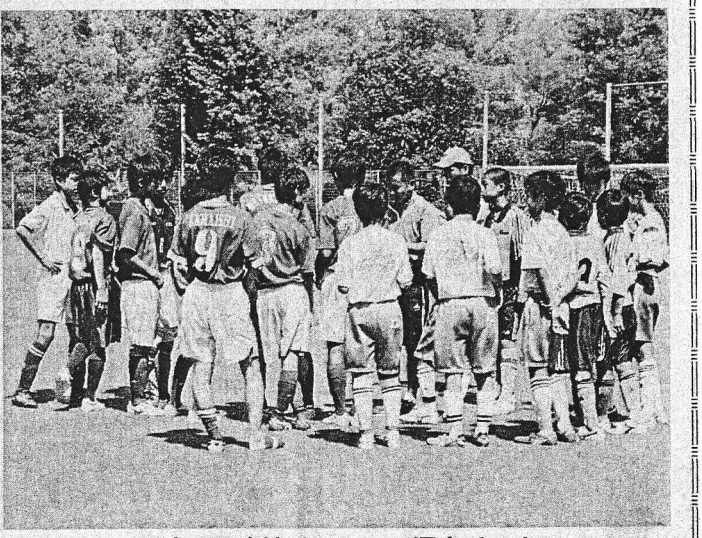
2011年8月2日から5日間のプログラムで、AMDAが医療チームを派遣した、東北被災地の釜石中学校、大槌中学校（岩手県）、そして志津川中学校（宮城県）の各サッカー部の生徒たちが校長先生やコーチと共に岡山に来た。総計52名だった。総社市からは総社東中学校、岡山市からは吉備中学校と香和中学校のサッカー部の生徒たちと校長先生やコーチが対応。生徒会等が被災地支援の募金活動による大切なお金をAMDAに託してくれた中学校である。初めての両者の顔合わせが復興支援サッカー親善プログラムとして実現した。

プログラムは、8月2日午後、岡山到着日に宗教者人道援助委員会（RNN）の宗教家の方々に黒住教本部大教殿にて東北からの中学生たちと共に被災者のための慰霊をしていただいたことから始まった。3日は総社市北公園、4日は岡山県営グランドの芝生で親善サッカーが行われた。

最初はぎこちなかった両者は試合が進むにつれて打ち解けてきた。3日の夜は、東北の中学生は総社東中学校のサッカー部員の家にホームステイした。4日には全ての中学校の混合チーム編成で交流サッカーが行われた。東北と岡山のサッカー少年たちの間に完全に友情が確立していた。5日には広島原爆資料館視察、6日伊丹空港に向かう前に、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターも視察した。

3日の総社東中学と大槌中学の試合中に、総社東中学3年生のT・T君が転倒により左肘関節を骨折し、手術を受けることになった。5日の晩、両備ボールでの送別会の時に、T・T君を励ますために、Tシャツに中学校ごとにメッセージと名前を書くことが決まった。メッセージの一部を紹介する。

「はなれとるけど、いっしょにがんばろうな。また、いつかサッカーしような。大槌でまってるで！」「ケガはつらいけど、なおるまでがまんして、なおったら又サッカーをがんばってください」「予想外でしたね。せっかく交流戦で楽しんでいたのが、こんなことに。でも、みんなの心はひとつというのは変わりませんので、くじけず自信を持ってがんばってください」「ケガはどうですか。おまえのシュート見てたぜ！ナイスファイト！ナイスガッツ！サッカーしろよ！」。ちなみに、T・T君の骨折は最初のゴールをあげた直後だった。



岡山での交流サッカー・混合チーム

4日の晩、幻想庭園を演出中の後楽園内の鶴鳴館で、東北と岡山の校長先生が懇談会をもった。サッカーによる中学生たちの人間としての絆が形成されていることが話題になった。今後、双方の中学生たちの1000キロを超えた友情と相互扶助の絆を更に強めることが「東北―岡山中学生『絆』形成3ヶ年プログラム」として確認された。AMDAとしてこのプログラムを全面的にサポートするとともに、支援ネットワークを拡充することを決定した。多忙にもかかわらず高谷岡山市長に励ましの言葉をいただいたことにも感謝したい。

東日本大震災復興支援―スポーツ親善プログラムが成功裏に終了することができたのは、宿舎を提供いただいた黒住教、生徒達の移動をボランティア価格で提供いただいた両備バスカンパニー、総社市北公園でのサッカー実施を全面的に計画と運営をしていただいた総社市、ホームステイを受けていただいた総社東中学校サッカー部員のご家族、県営グランドでの昼食や飲料水の提供をいただいたおかやまコープ、AMDAから被災地に派遣された調整員や医療スタッフ、AMDAボランティア、募金をして下さった方々などのお陰である。あらためて、すべての関係者の方々のご尽力にお礼を申し上げたい。

（AMDAグループ代表）